

クアトロテストについて

おなかの赤ちゃんがダウン症候群・開放性神経管奇形・18トリソミーである確率をお母さんの血液で調べる検査で、検査は妊娠 15-18 週頃に希望する妊婦さんのみに行います。

母体血清クアトロテストは 4 種類の物質を測定して、現在妊娠中の赤ちゃんがダウン症や 18-トリソミー、神経管奇形などの異常を持っているかどうかを調べる検査です。この検査で生まれてくるダウン症候群の 80%が異常値を示します。

染色体異常の中で、ダウン症以外は超音波検査などである程度の診断が可能になってきていますが、ダウン症は羊水検査をしなければ診断できません。従って、この検査は、ダウン症を心配される方が羊水検査を受けるかどうかを決めるための情報を得る目的で行う検査です。

ダウン症は高齢妊娠で頻度が高いことから、これまでは、高齢の妊婦さんで希望される方のみ羊水検査を行ってきました。しかし、羊水検査（お腹に針を刺し、子宮内の羊水を採取してそこに含まれる胎児の細胞の染色体を調べる検査）は、その検査によって流産や胎児が死亡するリスク（約 300 回の羊水検査に 1 人程度）があります。この検査によって高齢出産であっても、個々のケースでダウン症の可能性が低いことがわかれば、羊水検査をしないことを選択することもできます。また、若い妊婦さんがこの検査を受けた結果、リスクが高い場合には羊水検査を受けるという選択も可能です。この様にこの検査は、羊水検査を受けるかどうかを妊婦さん自身が判断するための一つの情報として考えて下さい。従って、可能性が高くても羊水検査を受けたくない人や、逆に確実な診断を希望して羊水検査を受けたいと思っている人は、この検査を受ける必要はありません。

昭和大学病院ではこの検査を推奨しているわけではありません。情報公開の一環として説明させて頂いています。検査を受けるかどうかはご夫婦でよく相談されたうえで決めてください。クアトロテストについて詳しい内容の説明を希望される方やそれらの検査を希望される方は、直接、担当医に申し出て下さい。